

視察先: 佐賀県武雄市 武雄市図書館

日時: 令和 7 年10月23日 10時から11時30分



視察目的:

加須市の今後の図書館のあり方を検討するため、公設民営の先駆的事例である武雄市図書館の運営コンセプト、特徴的なサービス、及び地域社会への貢献策を調査し、その成果と課題を加須市における新たな図書館構想に反映させることを目的とする。

I. 武雄市図書館の改革の背景と戦略

武雄市図書館は、図書館と歴史資料館の複合施設として 2000 年 10 月にオープンしました。しかし、直営時代には様々な課題を抱えており、改革へと踏み切りました。

1. 改革前の課題

直営時代は、年間 90～100 日近く休館しており、開館時間を延長するなどの努力をしても来館者は伸び悩み、利用者層が偏っていました(同じ人ばかりが利用)。特に若い世代の利用が少なく、講座やイベントも堅いものが多く、数が少なかったという点が弱点でした。

2. 基本方針とコンセプト

武雄市は、「図書館で街づくりをしよう」という目標を掲げ、「新しいスタイルの図書館作り」を目指しました。最終的な狙いは、図書館を通じて知名度向上や都市のブランド価値を高めること、そしてシビックプライドの醸成(地元への愛着)に繋げることでした。

掲げたコンセプトは以下の通りです：

1. 図書館らしくない図書館を作ろう。
2. 市民の生活をより豊かにする「学習の場」に加え、「交流の場」と「楽しめる場」を同一に追求する。
3. いつでも利用できる図書館と、また行きたいと思わせる居心地のいい場所の実現。

II. 武雄市図書館の具体的な特徴

武雄市図書館は、2013 年(平成 25 年)のリニューアル後、大きく 3 つの特徴を打ち出しました。

1. いつでも利用できる図書館

以前は夕方 6 時に閉まっていた開館時間を、リニューアル後は年中無休(365 日)、9 時から夜 9 時までと大幅に延長しました。これにより、仕事をしている人でも利用しやすくなり、市民への最大のサービスとなりました。

2. 居心地のいい図書館(空間設計とサービス)

館内は、木を多用した温かみのある広大な吹き抜けと、天井近くまで本を積み上げた圧倒的な空間デザインを採用し、「目的がなくても行きたくなる」ようなインパクトを与えています。



融合施設:

図書館内に蔦屋書店とスターバックスを導入しました。これは、図書館が好きな人以外にも来てもらうことを意図したものです。

館内飲物可:

従来の図書館では厳禁だった「飲み物」を、自宅にいるような感覚で過ごしてもらうため、館内の全ての本の閲覧中に飲むことを可能にしました(持ち込みも可)。

ゾーニングと設備:

広い吹き抜け空間では BGM を流し、おしゃべりを楽しんで良いゾーンとしています。一方で、奥の閲覧室や第一学習室は静かな場所として確保しています。開館当初から無料 Wi-Fi を整備し、スターバックス席と合わせて 120 席に電源コンセントを設置しています。

書店との連携:

販売されている雑誌や書籍は、館内の図書館の本と同様に手に取って読むことができます。これにより、読書に関係なく「雑誌でも読みに行こうか」という来館のきっかけ作りとなっています。

3. 体験できる図書館(イベントと学習支援)

武雄市図書館では、来館者に「新たな発見」や「やりがい」を見つけてもらうため、年間1,000回以上の講座やワークショップを実施しています。

多岐にわたるイベント: 毎日のお話し会(年間約400回)のほか、地元の講師による硬い古典講座や金融相談会、伝統工芸体験、プログラミング講座など、子供からシニアまで幅広いジャンルを展開しています。

著名人・作家の招致: 図書館の一部を利用して50～70人規模で講演会を開催し、参加者と膝を突き合わせて語り合う場を提供し、来館者に刺激を与えています。

子供図書館の設置: 2017年(平成29年)に本館からあえて離して子供図書館を建設しました。これは、騒音を気にする母親たちの意見を反映したもので、家族や世代を超えた交流の場となることを目指しています。

学校・地域支援:

学校単位での来館を奨励し、市役所のマイクロバスを活用して送迎を行っています。希望する保育園・幼稚園(17～18箇所)に対し、3ヶ月ごとにスタッフが図書を入れ替えて届けています。

子育て中の家庭などを対象に、無料で本の宅配サービス(全国で唯一、武雄市が実施しているサービスとされる)を実施しています。返却ボックスを市役所や公民館、駅などに11箇所設置しており、回収のためにドライバー2名を雇用し、毎日回収を行っています。

III. 運営体制と成果

1. 公設民営(指定管理者制度)の活用

武雄市は、目指す図書館像を実現するため、公募を行わずCCC(カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社、蔦屋書店を運営)を一本釣り(随意契約)で指定管理者としました。これにより、通常4～5年かかる改革を約1年で実現するスピード感を得ました。

CCCは、市からの運営費(指定管理料)を受け取るだけでなく、目的外使用として使用料を支払い、蔦屋書店とスターバックスを運営しています。これにより、図書館の集客努力が

書店・カフェの売上向上に直結する相乗効果を生み出すビジネスモデルが構築されています。

市は、民間企業に丸投げせず、担当課と毎月 1 回の定例報告を行うなど、行政が主導権を確保する努力を続けています。また、行政出身の館長が行政とのパイプ役を担っています。

2. 運営スタッフの安定化

CCC への運営委託に際し、市は以前から勤務していた職員の継続雇用を CCC に要求し、実現させました。結果として、スタッフの身分が安定し、モチベーションが向上しました。

3. 成果

来館者数:

リニューアル前の年間約 25 万人が、初年度で目標(50 万人)を大きく上回る 92 万人を達成しました。その後一時的に減少しましたが、子供図書館の開設で V 字回復しました。

市民満足度:

スタッフへの満足度は以前の 50%台から 90%台に向上しています。

地域活性化:

市民の約 8 割が、図書館のリニューアルによって武雄市自体に「変化があった」と感じており、「知名度が高くなった」「街に人が増えた」「自慢できる施設になった」といった声が上がっています。

IV. 加須市への提言と今後の取り組み

視察を通じて以下の所感を述べました:

空間の重要性: 圧倒的な空間デザインは非常に重要であり、ライフステージに応じたゾーニングも適切にされている。

試行錯誤の継続:

未来に向けたイベントや工夫が常に試行錯誤の中で行われている。

キーマンの必要性:

こうした施設とサービスを実現するためには、館長のような熱意あるキーマンがプロジェクトに不可欠である。

上記の視察結果に基づき、加須市に新たな図書館を建設・運営するにあたり、武雄市の成功事例を反映させるための提言を以下にまとめます。

1. 空間とコンセプトの革新

複合施設の検討:

図書館に単なる読書機能だけでなく、「交流」と「楽しむ」要素を加え、書店やカフェといった商業スペースを融合させることを検討する。

圧倒的な空間設計:

利用者が「行きたい」と感じるような、木の温もりを活かした吹き抜けなど、インパクトのある空間デザインを追求する。

居心地のよさの追求:

飲み物の持ち込みを許可するなど、利用者の立場に立ったサービス設計を導入する。

2. 指定管理者制度の積極的な活用と民間連携

スピード感のある改革:

民間事業者のアイデアや企画力を早期に取り込むため、構想段階から連携を図り、柔軟な管理者選定方法(プロポーザルを含む)を検討し、改革のスピード感を高める。

相乗効果モデルの構築:

指定管理者が図書館運営費だけでなく、商業スペースの収益によって自らの運営努力が報われるような、武雄市型のビジネスモデル(図書館と商業施設の連携)の構築を目指す。

3. 市民生活を支援するサービスの充実

アクセシビリティの最大化:

開館時間の大幅な延長(夜間開館、年中無休)を前提とする。

多様なニーズへの対応:

子育て世代の利用を促進するため、子供図書館のような独立したまたは機能的に分離したスペースの設置、及び子育て相談などの行政サービスとの連携を強化する。

地域密着型アウトリーチ:

学校への訪問支援や、利用が困難な市民を対象とした宅配サービス、市内複数箇所での返却ボックス設置を検討し、市民サービスを向上させる。

4. 継続的な変革の仕組みの導入

イベントの日常化:

年間を通じて多種多様な講座やイベントを実施し、市民が図書館を訪れる「きっかけ」を常に提供する。

市民意見の反映:

武雄市が毎年実施しているように、市民アンケートを定期的に行い、その結果を元にサービスや施設の改善を迅速に行う体制を構築する。

以上、報告とさせていただきます。

栗原智之